

3-2

最後に生きた場所

練馬高松園での看取りへの取り組み

ターミナルケア

多職種の協力・連携

特別養護老人ホーム 練馬高松園

発表者：介護職員 青木理恵、染谷昌宏

共同研究者：介護主任 大口真弥、上原恵

所在地：練馬区高松2-9-3

看護主任 柴山妙子 生活相談員 杉原靖、磯岡雅人

TEL：03-3926-8341

E-mail : info-n@tfk.or.jp

FAX：03-3926-7872

URL : <http://www.tfk.or.jp>

今回の発表の施設
またはサービスの
概要

大正8年に設立された社会福祉法人 東京福祉会が、介護福祉事業として平成12年4月に開設。定員97名、ショートステイ13名、デイサービス42名（一般30名・認知12名）、地域包括支援センター支所、在宅介護支援センター、居宅介護支援事業所からなる高齢者福祉施設です。私たちの願いは、利用者の笑顔、家族の笑顔、職員の笑顔そして地域の信頼です。

<取り組んだ課題>

練馬高松園では、平成17年よりターミナルケアを実施してきた。最初のケースは、入院中だったが終末期の状態にあるご利用者で、認知症による入院受け入れが限界、病院個室利用による金銭問題等、家族の負担も限界となり、施設での看取り介護の検討を行うこととなった。

○施設での看取り介護の検討

- 施設で初めての看取りとなる為、知識と経験が不足。
- 医師、看護、介護がどのように連携するのか。
- 家族の意向だけで看取りができるのか。
- 家族の同意はどのような形で得るのか。
- 看取りを行う場所はどうするか。
- 医師の協力はどこまで得られるのか。

<具体的な取り組み>

○施設での看取り介護の実施

- 看取り介護用に別室を用意。
- 介護職の不安を取り除くため、看護職とご家族による泊り込みの付き添い。
- 医師による死亡確認や病状把握のため、24時間連絡体制の整備。

○看取り介護終了後のケア

- 職員の精神的なフォローとして、座談会を開催。
- 家族へ看取り介護の意向についてアンケート。
- ターミナルケア検討委員会を創設、マニュアル作成。
- 外部講師を招き、職員全員を対象にした看取り研修。
- 看護職がバックアップすることで、看取りの実施を継続。

<活動の成果と評価>

○看取り介護の実施状況

	実施数	平均年齢	平均在園期間
平成17年度	1名	86歳	5年2か月
平成18年度	1名	92歳	2年8か月
平成19年度	1名	94歳	4年4か月
平成20年度	9名	90歳	3年10か月
平成21年度	4名	90歳	4年4か月

○安楽に最後を迎えてもらう為に注意したこと

- ご家族へは医師からしっかりと説明を行い、ご家族との信頼関係を構築。
- 毎日清拭し、清潔の保持、不快感の軽減に努めた。
- バイタルサイン、尿量、苦痛の表情等に留意しながらこまめに様子観察を行った。
- 身体状況について毎朝夕申し送りし、全職員で情報の把握と共有を行った。
- 食事時間にこだわらず、本人の体調に合わせて食べられるものや嗜好品を提供した。
- 身体状態が把握しやすいよう、スタッフルームや医務室の隣に部屋を用意した。

<今後の課題>

○終末期は自己判断が曖昧な為、本人からの意向確認をどうするか。

○夜間など医師がすぐに来られない場合の死亡確認。

○職員の不安感の解消。

○死期の予測が困難な為、付き添いなどの対応の判断が難しい。

【メモ欄】